

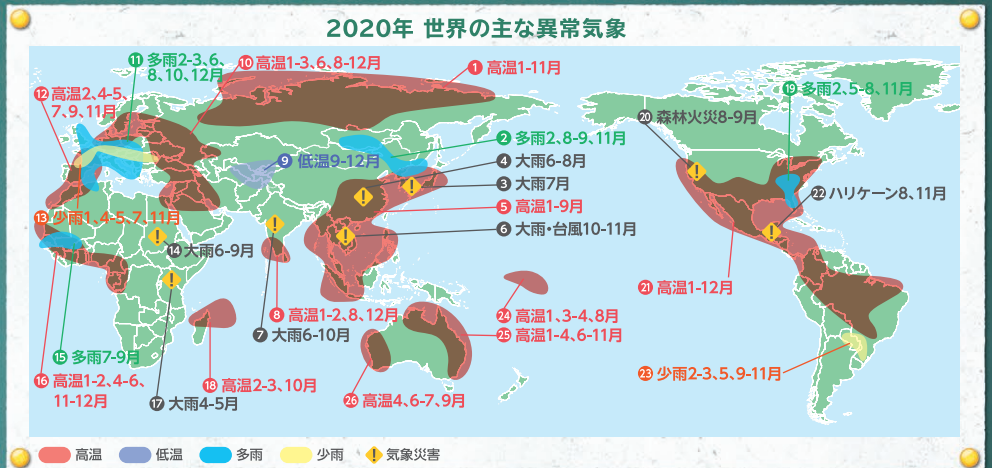
世界的に自然災害が多発

甚大な被害から食料の安定を確保するために

なぜ今?
国消国産

異常気象などの自然災害が、世界の農業を直撃

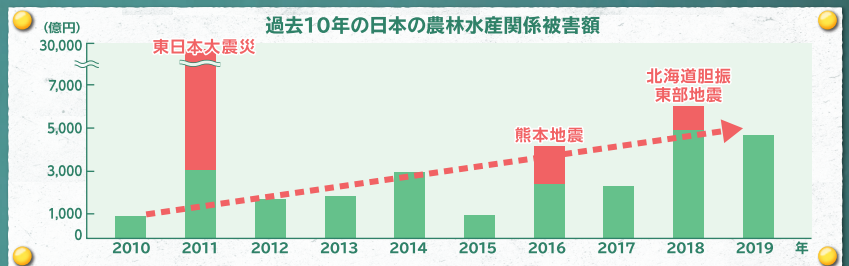
近年、世界中で異常気象などの自然災害が多発しています。日本が多くの食料を輸入している、米国、中国、豪州、タイ、カナダでも、豪雨、大雨、干ばつなどが起きています。中でも最大の農産物輸入国の米国では、竜巻やハリケーンによって、2017年に3060億ドル(当時のレートで約34兆6000億円、農業被害以外も含む)もの被害を受けました。自然災害による被害は、被災国の国内の食料供給に影響を与えるだけでなく、その国から食料を輸入している日本にとっても大きなリスクとなります。



出典:気象庁ホームページ

日本でも多発する自然災害は、大きなリスク

日本においても自然災害は多発しており、農作物だけでなく農地や関連施設にも多大な損害を与えています。自然災害の回数・被害額は増加傾向にあり、2019年の農業被害額は約4883億円にもなりました。これからの日本の農業にとっても、自然災害が大きなリスクとなっていくことは間違いありません。



出典:農林水産省(令和2年4月末時点)

だから今!
国消国産

「国消国産」で、日本の食料の安定を

日本だけでなく、世界でも自然災害の発生が続けば、農畜産物が生産できなくなり、価格の高騰が始まり、最終的には食料不足になってしまうリスクがあります。私たち一人ひとりが普段から、「国民が必要とし」「消費する食料は、できるだけその「国」で生産する」という「国消国産」の考えを実践していくことが重要です。

- 1 自然災害の頻発で、世界中の農業に甚大な被害
- 2 日本においても自然災害が多発しており、大きなリスク
- 3 食料を輸入に依存することなく、「国消国産」で食料の安定を確保

ここがポイント!

JAグループサポーター・林修



耕そう、大地と地域の未来。 JAグループ